



平戸

平成31年4月26日
横浜市立平戸小学校
〒244-0803
横浜市戸塚区平戸町542番地
Tel 045-821-2329

「あたりまえ」と思うことを続ける

校長 菅原 久忠

校庭の木々の若葉がまぶしく輝いています。東戸塚駅より学校へ向かう道すがら、色鮮やかにつつじの花が咲いています。学校へ着く頃にはすっかり汗ばむ季節になってきました。

平戸の子どもたちも新年度を迎え、1か月が過ぎようとしています。登校時に正門で子どもたちを迎えていますと、半袖姿で登校してくる子どもも増えてきたように思います。登校してくる子どもたちの表情をみていると、新しい学級の友達や先生との活動にがんばろうという気持ちが伝わってくるようで、うれしくなるとともに子どもたちに元気をもらっています。

4月初、学級開きや学年開きが行われていました。ある学級の教室に入ると、当番活動と係活動について話し合いをしている最中でした。自分が担任しているときのことですが、子どもたちが話し合いをしているときに、「当番活動は、みんなのためにならないと困る活動、あたりまえのことをする活動」、「係活動は、学級みんなが楽しくなるような取組を考えていく活動」といった考えを出し合っていたことを思い出しました。当番活動については、給食当番や掃除当番の活動を思い浮かべるとわかりやすいかもしれません。当番活動は、どのように行うかが明らかになっている活動で、皆がしっかり分担して同じように行うことが必要な活動です。昨年のある朝会で、「あたりまえのこと」には、どのようなことがありますか」と問うと、「挨拶すること」、「友達の話を聴くこと」、「かたづけをすること」などと返ってきました。子どもたちは日々の生活の中で自然に行う行為であると捉えていると感じました。「あたりまえのこと」は、実は簡単ではありません。結構難しいことです。自分一人くらいはやってもやらなくても大丈夫など、気持ちが緩んだ瞬間にできなくなるからです。粘り強く続けていくことが大切だという話をしました。

人と関わり合う学校で、皆が気持ちよく生活するために、「あたりまえのことを続けること」が土台の一つになればよいと考えています。

